

大中PRIDE



大津町立大津中学校
生徒指導通信13号

令和5年10月27日(月)

文責：岡村 康平

「心の偏差値」

今回は、とある子育てに関する本からの抜粋です。

私が娘にお手伝いの習慣をつけようと、「お手伝いをしたら100円のお駄賃をあげる」という約束をしました。日頃、あまりお手伝いをしない娘は、ものすごい笑顔で、勢いよくお手伝いをしてくれたのです。お手伝いが終わると、すぐさま私の所へやってきて、「パパ、お駄賃は？」と促す娘。100円玉を渡すと、「ありがとうございます。」と一言添え、嬉しそうに財布の中にしまっていました。私は、このような子どもへの関わり方が、良い方法なのだと思います。

その翌日、皿洗いをするように頼むと、娘はお駄賃のことが頭をよぎったのか、「分かった。」と返答し、お手伝いをしてくれました。前回と同じように、お手伝いが終わると、すぐさま私の所へやってきて「パパ、お駄賃は？」と話します。しかし、私は「今日はパパの財布にお金が入ってないから、お駄賃は渡せないよ。」と話しました。事情を理解してくれるだろうと思っていましたが、意外な返答が返ってきました。ムスツとした表情で、

「パパ、お駄賃が無いなら、お手伝いしない！！」と…。

つまり、娘は、自分にとって得なことがあるからお手伝いをする、何かもらえるからお手伝いをする、といった考えでお手伝いをしてきていたのです。このことを痛感した瞬間、お駄賃をあげて子どもを動かす方法は良くない方法だと分かりました。

世間一般でよく言われる言葉…「お手伝いをすることはとても良いこと」。では、なぜお手伝いをするのが良いことなのでしょう。私の経験上、我が子に何かを手伝ってもらうよりも、大人がやった方が早いし、余計に手間がかかり、手伝ってもらっても、やり直しをしなければならない場合が多いでしょう。

先日、私の母に、この娘の件について相談しました。「お手伝いすることで、自分の役割ができ、家族の一員という実感ができて、自分が家族の役に立っているという経験は、大きな自信に繋がると思うよ。幼児のお手伝いは、まだまだ時間がかかったり、親がやってしまった方が楽だったりもするけど、「邪魔だからやらないで。」と言われ続けると「自分は役に立たない存在」なんて思ったりもするとよ。それよりも、何か一つでも、お手伝いできて「ありがとう。」なんて感謝されれば、子どもだって嬉しいものじゃない。何より「自分は必要とされている。」という気持ちは、子どもにとって色々な意欲や自信を育てることに繋がると思うよ。」と説諭されました。だからこそ、何かをぶら下げてお手伝いをさせることのように、打算的な生き方をさせてしまう（してしまう）ことは避けなければと思ったのです。

私は、人生において「学力の偏差値」より **「心の偏差値」**の方が重要だと思います。

もちろん、勉強はできないより、できた方がいいかもしれませんが、しかし、いくら一流と言われる学校に合格できる「学力の偏差値」を持っていても、人の心の痛みが分からなければ、その人生は決して意義あるものにはなりません。少しはできなくとも、人の痛みが分かる思いやりを持ち、誰にでも分け隔てなく接することができる、そんな「心の偏差値」の高い人になれば、きっと幸せになるし、大きな縁に結ばれた人生を築けるはずだと思います。

それでは、どうしたら「心の偏差値」を高めることができるのでしょうか…。

「心の偏差値」は、自分の時間や労力を、他の人を喜ばせるために使うことで高まっていくと思います。打算的にならずに、自己研鑽を続けていると「心の偏差値」は高まり、それに伴って周囲にも良い影響を与えられるようになるのではないのでしょうか。

教育者である私も、自ら率先して自己研鑽に励み、毎日薄紙一枚分でも「心の偏差値」を高める努力を続けていきたいものです。あなたは現在、打算的になっていないのでしょうか…。

『心の偏差値は自己研鑽に比例して高くなる』

私はそう思います。